



発行
(一社)北九州市PTA協議会
北九州市小倉北区大門一丁目6番43号
(北九州市立生涯学習総合センター2階)
☎(093)581-7268
発行責任者
会長 小森 潤一郎

第14回「Stop・ザ・非行 ふくおか」北九州大会

福岡県内には(一社)北九州市PTA協議会、福岡市PTA協議会、福岡県PTA連合会が構成された三P協議会があります。その三団体共催により、毎年福岡県内にて「Stop・ザ・非行ふくおか」が開催されています。令和元年度は、児童・生徒の健全育成について保護者および教職員の学びの場となることを目的に北九州市で開催されました。

基調講演は、福岡県警察本部 生活安全部 少年課 北九州少年サポートセンター 少年育成指導官 係長 堀井智帆様に「生まれてきてくれてありがとう少年非行の現場から」という演題でお話をいただきました。堀井様には、少年非行の現場に携わってこられた経験からお話をいただきました。

人間は産まれて間もない乳幼児期は、人の助けがないと生きていけません。その時に必要な助け、すなわち愛をもたえてない子どもは心の安定感が低く、壁にぶつかったとき、それを乗り越える強さやエネルギーがありません。非行少年と呼ばれる子どもたちと接していると、そのような子どもを多く感じます。私たち大人は、非行の道に進んでしまったその子どもたちの心の不安定さや弱さを知り、理解することです。そのためには心の傾聴が大切です。

講演後のアンケートでは、「非行は我が家には関係ないと思っていたが、根本的な大切なことが開けて有意義だった。『命さえあれば』この言葉を忘れていた。『生まれてきてくれてありがとう』の言葉を我が子にしてみようと思った。心に染みる話だった。」などの感想が書かれていました。

記念講演は、西九州大学非常勤講師 臨床心理士 吉村春生先生をお招きし、「子どもがかぜをひくとき—安心感と自立—」という演題で、臨床心理士の立場からご講演を行っていただきました。

人間は頭でわかっていることができて心とは限りません。それは、人間が感情の生き物だからです。では、どうすれば分かっていることができるようになるのでしょうか。北九州少年サポートセンターの堀井様のお話と重なるところがありました。それは、安心感(心的エネルギー)の蓄積量に関係するそうです。安心感の蓄積は、思春期以前特に乳幼児期)は家族関係の中で、思春期



以降は友人関係の中でおこなわれます。特に、その蓄積のプロセスには、甘えられ体験Ⅱ自発的表現の受け入れ体験が重要で、その体験が不足した場合に安心感が低下し、現実適応が困難になったり、逆の過剰適応(よい子演出)になったりします。安心感の量が不足すると、今まで頑張っていたことができなくなります。その状況で学習として(評価や変化の圧力行使)を優先しすぎると、心的エネルギーはさらに低下し、不適応状態はさらに深刻化します。そして、その過程では様々なストレス反応(抑うつ、不安、不機嫌、怒り、無気力、身体症状)が見られるようになり、神経症(不安神経症、強迫神経症、対人恐怖症など)や精神病(うつ病など)に移行していく場合もあります。

参加の皆様からは「心の充電がとても大切だと改めて思った。子どものエネルギー充電のために、聴き上手と心のこもった言葉かけと笑顔を振りまこうと思った。甘えに対するイメージが変わった。甘えさせ、夢中になれることを続けさせたいと思った。」などの感想をいただきました。また、「いろいろな人がいることを知ろうとしない社会に問題がある。無関心がよくないことをどうやって伝えるかが課題だ。」という今日の課題に対するメッセージもいただきました。

以上のように、新たな気持ちにさせられたことや、今日からできることに取り組みたい、親として忘れていたことを思い出させてもらったといった共感的・賛同的な内容の感想をたくさんいただくことができました。

大会宣言では、未来を担う子どもたちが、夢をもち心豊かに育つため、非行を生まない社会の実現を図ることを共通の願いとし、総力をあげて非行の未然防止に立ち向かうことを宣言して大会を閉会しました。

令和元年度 家庭教育講演会 「いいんだよ」は魔法の言葉

令和元年8月18日(日) 黒崎ひびしんホールにて、一般の保護者と児童・生徒を対象とした「親子で学ぼう 家庭教育講演会」を開催いたしました。たくさんの方の保護者のみなさん、先生方、児童・生徒さんにご来場いただきました。

講師：学校法人立花学園 立花高等学校 校長 齋藤 眞人 先生
演題：「いいんだよ」は魔法のことば
～寛容の精神が 醸成される社会へ～

本年度お招きした齋藤先生は、福岡市東区和白にある立花高等学校の校長先生です。不登校生徒の自立支援、心の癒しに重点を置いた教育実践で、心のよりどころを求める子どもや保護者からの支持を集めています。

今回の講演では、子どもたちが安心して個性を発揮できるようにと、親として個性を発揮できるようにと親としてどのような声かけを行えばよいのかを重点的にお話いただきました。

私たち大人がしなやかさを失ってはいませんか。子どもの役割は大人の手を煩わせること。大人の役割は子どもの振り回されること。教え勝手の良い子どもたちばかりに囲まれていては、共に育つはずが一方的に「育てる」関係になってしまいませんか。子どもが安心して個性を発揮できるように、大人がおおらかに接することが大切です。

共感的理解に心がけることが大切です。例えば、100回の「頑張れ」よりも、たった1回の「よう頑張ってるね」の方が共感的です。できる(100点・ゴール)という前提を捨て、できない(0点・スタート)という前提に立てば、子どものできたことによる頑張りが見えます。このように、できないことを嘆くより、できていることを認めていきましょう。そして、子どもたちが安心して個性を発揮できるように大人がおおらかに接しようという内容のお話でした。

ご参加いただいた皆様から、「大人の一言一言が子どもを苦しめていることに気づき、反省するとともに自分の考え方を少し変えていこうと思った」「頑張っているね」と言えていないことに気づいた等、たくさんのご感想をいただきました。

この講演を通して、子どもへの共感的な姿勢や言葉かけの大切さを学ぶことができました。来年度の講演会も、市内の皆さんの子育て・教育が少しでも豊かに、心安らかに、そして楽しくなるような講演会を開催できるように努力して参ります。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。



つなげよう「いのち」のバトン 次世代を生き抜く子どもたちへ ～地域ととも育む力 兵庫から～

第67回 日本PTA 全国研究大会 兵庫大会

第67回 日本PTA全国研究大会 兵庫大会が8月23日(金) 8月24日(土)の2日間にわたって開催されました。

23日の初日は、兵庫県内10会場にて分科会(実践発表・討議)が行われました。それぞれ設けられた研究課題に基づいて、著者による基調講演や地元からの多彩な実践発表があり、会場との質疑も交えて活発な討議が繰り広げられました。

その中で注目を集めていたのが第6分科会の「防災教育」でした。阪神・淡路大震災で戦後我が国が遭遇したことのない未曾有の大被害が出た兵庫県の経験から、「いのち」を主要テーマに掲げていました。大震災を教訓として、今PTAができることは何か、学校でできる防災教育の在り方とはどんなものが、多方面から検証し、身近でできる具体的な提案がなされていました。

24日の2日目には、神戸市・ワールド記念ホールで全体会が開催されました。歓迎アトラクションでは、宝塚のお膝元らしい宝塚OGレビュショーがおこなわれました。

その後、テレビ等でお馴染みのメンタリストDaiGo氏による「子育ては、心理学でラクになる」と題した記念講演がおこなわれました。「親の子育てのせいで子どもが育たないこと、自分を攻める必要はない」ということを海外の文獻などから導き出しておられたのです。その中で、「子どもを変えようとするのではなく、保護者である自分自身を変える。その姿を子どもに見せることで保護者の意志が子どもに伝わる。こんな子どもになつてほしいと思うのなら、まず親自身が変わるチャレンジをしましょう。」という講演でした。多くの文獻を基にした説得力のあるお話でした。

以上のように、大変有意義な2日間となりました。次回は、2020年8月28日(金)・29日(土)に、富山県にて開催される予定です。



令和元年度 日本PTA全国協議会表彰

去る11月15日(金)、東京のホテルニューオータニにて日本PTA全国協議会 令和元年度年次表彰式が開催されました。北九州市の代表として、表彰された学校や個人の紹介をいたします。おめでとうございます。

文部科学大臣賞(団体)

北九州市立田野浦小学校PTA

日本PTA会長賞(団体)

北九州市立花尾小学校PTA

日本PTA会長賞(個人)

植 木 直 寛 様
奥 田 まさ子 様
江 口 満 様
小笠原 有 子 様



令和元年度 九州ブロックPTA協議会表彰及び感謝状贈呈

10月27日(日)「第64回日本PTA九州ブロック研究大会 福岡大会」の全体会の中で、表彰及び感謝状贈呈が行われました。北九州市からは、6団体と6個人が表彰され、3名の方に感謝状贈呈が行われました。おめでとうございます。

団体表彰

北九州市立二島中学校PTA
北九州市立沼小学校PTA
北九州市立中原小学校父母教師会
北九州市立中井小学校父母教師会
北九州市立門司総合特別支援学校保護者教師会
北九州市立思永中学校PTA

個人表彰

曾我部 駿 介(北九州市立黒崎中央小学校PTA)
小笠原 有 子(北九州市立ひびきが丘小学校PTA)
江 口 満(北九州市立石峯中学校父母教師会)
奥 田 まさ子(北九州市立門司総合特別支援学校保護者教師会)
植 木 直 寛(北九州市立東郷中学校PTA)
久保川 博 文(北九州市PTA協議会事務局長)

感謝状

曾我部 駿 介(九州ブロックPTA協議会 理事)
植 木 直 寛(九州ブロックPTA協議会 代議員)
久保川 博 文(九州ブロックPTA協議会 代議員)

家族のきずなを三行詩で

三行詩コンクール作品紹介

日本PTA 全国協議会主催で募集をしておりました「楽しい子育て全国キャンペーン～親子で話そう!家族のきずな・我が家のルール～三行詩」にたくさんのご応募ありがとうございました。役員会で審査し、下記の作品を北九州市の代表として、コンクールに出品しました。東京都で行われた選考の結果、鴨生田小学校 PTA 村島 永俊さんの三行詩が佳作賞に選ばれました。心よりお祝い申し上げます。来年度もたくさんの作品をお待ちしています。



小学生の部	氏名	学年	学校名
ぼくがおこったとき、かなしいときは、 ママがだっこしてこころのとげとげぬいてくれる。 そしたらぼくはやさしいきもちになるよ。 ママのとげとげもぬいてあげるね。	木下 明飛	1	大里柳小学校
おともだちとけんかした あしたあやまろう でも今日は今日しかないやっぱり今日あやまろう だってあしたなにがあるかわからないもん	井上 陽向	2	大里柳小学校
まほうの言葉 我が家のルール ありがとう ごめんなさい	桑原 真生	2	鴨生田小学校
まいあさげんきに「いってきます」 にこにこえがおで「ただいま」 げんきにおうにかえることがぼくのおしごと きょうのぼくのおはなきをきくのがおかあさんのおしごと。	辻 元博	2	鴨生田小学校
早おきは少し苦手。 でも早くおきたらパパとさん歩。 すごくてのしい。	左藤 香磨	4	鴨生田小学校
一般の部	氏名	学校名	
幼い頃は「お父さん大好き」と言ってくれたのに 今じゃ「近づかないで」と言う。 そんな娘が「ありがとう」と言って コップとハンカチのプレゼントをくれた。 涙が出そうなくらいうれしかった父の日。	村島 永俊	鴨生田小学校	

すべては心豊かな子どもたちへ
親のおもい、学校のちから、
地域のやさしさ

第75回指定都市PTA情報交換会 新潟大会

令和元年9月12日(木)13日(金)
会場 ホテルオークラ新潟

(公社)日本PTA全国協議会に加盟する16の指定都市PTAの連携を図るため、情報交換を密にし、共通課題を明確にして、その解決方法を見出すことを目的に、毎年開催されています。今年度は、9月12日(木)・13日(金)に、新潟市のホテルオークラ新潟で行われました。

一日目は、各分科会に分かれ、それぞれのテーマに沿って情報交換や意見交換が行われました。
第1分科会では、PTAの組織・運営について話し合われました。

PTA役員・実行委員への参加に消極的な保護者もおられます。保護者が動員型の受動的ではなく、教育の当事者意識をもち、PTA組織の一員として、主体的・能動的に活動に参加するにはどうすべきかなどについて、情報交換と討議が行われました。PTAの趣旨には間違いはないと思うので、活動方法や内容について、もった時代は合ったものに変わっていくかなければいけないのではないだろうかなどの意見が出されました。

第2分科会では、多忙化解消等、今求められているPTAの役割と研修について話し合われました。まず、役員として仕事をしっかりやり遂げることが大切だという意見がありました。その中で、仕事が進まないようにする。先生方とコミュニケーションをとる。そして、子どもの笑顔が減らないようにしていくことが大切という意見が出されました。研修会については、自分の意見が言える、または伝えられる研修会にしたい必要があるという意見が出されました。また、Webを活用したアナウンスを取り入れてはどうだろうかという意見も出されました。

第3分科会では、地域連携を通して、安全安心な子どもを取り巻く環境づくりについて話し合われました。今、問題に取り上げられることの多いSNSについては、まず親が正しいスマホの使い方を学び、知らなければならぬ。そのためには、親の勉強の必要性について意見が出されました。安全安心な環境づくりでは、地域との連携のため、地域活動に積極的に参加して顔を覚え、繋がっていくという意見が出されました。また、自動販売機に防犯カメラを設置することを企業と共に推進して行くなどの意見が出されました。しかし、最終的には、「自分の命は自分で守る」ということが一番大切なことでした。

第4分科会では、読みとなる広報紙について情報交換と討議を行いました。各指定都市の取組の状況が情報交換され、今後の活動に活かせる話をたくさん聞くことができました。子ども用と大人用のページを分けたり、ホームページと広報紙を分けたりして、構成を工夫してみてもどうかという意見が出されました。また、リアル性の高いものや保護者が必要としている内容のものを掲載するというような意見も出されていました。

それぞれの協議会や単位PTA活動での問題点や課題を出し合い、その解決策を考え、それらを整理し、魅力あるPTAを創造するためにこれからどうしたらよいか、現在のPTA活動及び今後の活動の在り方に参加者みんなで見つめあうことができ、大変参考になる研修会になりました。

二日目の記念講演では、講師に岩崎 由純氏をお招きし、「子どもの心を育てる言葉かけ」や「短くて」「分かりやすい」「肯定的」な言葉かけについて、子どもを応援するよきサポーターでありたいと思っているはず。そこで、子どもの自己肯定感を育み、元気を与え、子どもにやる気を起こさせるコミュニケーションの取り方とはどんなものでしょうか。それは、ベップトークです。「短くて」「分かりやすい」「肯定的」な言葉かけは心に響きます。発達段階に応じた言葉かけによって子どもの心が育ちます。そのような、激励のショートスピーチで前向きになれる、背中の一押しとなる声かけ、それがベップトークです。

ベップトークによる言葉はイメージが大切で、ポジティブな言葉でしてほしいことを伝え、分かる気、できる気、やる気、成功をイメージさせます。例えば、「うそをつくな」「正直に話そう」「サボるな」「しっかりやろう」「ボケるとな」「集中しよう」「あきらめるな」「信じ続けよう」「あせるな」「落ち着いていけ」「遅刻するな」「時間を守ろう」などのように、言葉を変換して伝えることが大切です。

人間は、期待をし、成功を信じて指導すると、ベップトーク効果で期待に反します。このようにベップトークは、潜在意識に直接作用する可能性があとという事です。親も子どもも、自分に対して肯定的な言葉(セルフベップトーク)を意図して肯定することが大切です。

高めよう「親力」

第64回日本PTA九州ブロック研究大会 福岡県大会

去る令和元年10月26日(土)・27日(日)、第64回日本PTA九州ブロック研究大会 福岡県大会が福岡県内に開催されました。本年度の大会スローガンは、新しい時代を共に歩むPTA・家庭・学校・地域が、つながり、高めよう「親力」(おやちから)。「この「親力」(子育てを通して子どもと共に保護者が学び、成長していくこと)を高めるため、県内9つの分科会で事例紹介・研究発表と活発な意見交換が行われました。

北九州市からは第2分科会で八幡東区の花尾小学校PTAが提言者として登壇されました。本大会のために今春より準備を進められていた研究成果を九州管内のPTA会員の皆様へ発表されました。

まず、花尾小学校では、現状や慣習に囚われず、子どもたちに何が必要なのかを考えます。そして、学校の授業に「目当て」があるように、PTA活動にも「目的」があり、「何故この行事を行うのか」を明確にして取り組んでいることを伝えられていました。また、保護者がPTAを勉強の場と捉え、「聞きたい」「知りたい」ということを地域住民の方や、教育委員会、その他関係団体へ協力を仰ぎながら、一緒に取り組んでいきます。

このような取組を通して成長していく花尾小PTAの在り方、参加された方々は多くのことに気づかれました。親力を得ることができたようでした。大会2日目の全体会では、国立青少年教育振興機構 理事 鈴木みゆきさんと「学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶応大学に現役合格した話」の主人公ビリギャルの小林さやかさんとお二人による対談形式の記念講演が行われました。鈴木先生と小林さんは、お二人とも教育学研究に携わっておられますが、どのような子育てを実践すれば慶応大学に入学できるのか?ではなく、勉強することの意味について、意見交換されてい

ました。小林さんは「あなたのために言っているよ。勉強しなさい」という言葉について、「お父さん・お母さんは自分が勉強しておけばよかったと後悔しているから、もっと知識をつけて幸せになつて欲しいと考えている。しかしこの言葉ではその想いはなかなか届かない」と考えているのだそう。勉強することの意味は「自分」にあるのではなく、大切な人、例えば将来子どもができたときにその子を守るための経済力・考える力、生きる力をつけることにある。その生きる力の土台となるのが知識であり、知識をつけるために勉強、そして学校があると言われていました。子どもへの声のかけ方について、そして、子どもの行動や思いを肯定して伸ばしていくための親の在り方について、たくさんの気づきを得られる講演となりました。

ご参加、ご協力いただきました皆様、心より御礼申し上げます。

分科会
花尾小学校 第2分科会
テーマ/研修・啓発活動
【気づく親力】
気軽に参加でき気づきを
得られる研修・啓発活動



令和2年度
『単位PTA活動活性化推進事業』について

単位PTA活動活性化推進事業
企画募集
しました

令和2年度4月1日～令和3年度2月28日 までの間
令和2年度事業テーマ
小・中・高・大学・社会・地域・国際
家庭学習支援
向上事業

助成金 単位PTA活動活性化推進事業(1単位あたり2万円)
お問い合わせ: 北九州市PTA協議会 TEL. 093-581-7200 FAX. 093-581-9191

(一社)北九州市PTA協議会では、「単位PTA活動活性化推進事業」を行っています。テーマ事業を通して課題解決に向けて取り組む各PTAの活性化を願って支援事業を行っています。事業内容説明会には、10校と1連合会のPTAの皆様に集まっていたいただきました。

いっただよもの
作 ラクトいちご

いつもで遊んでるの?! 塾の時間でしょ!

えーめん どもくさい 休みたさい

うちも!

塾を選んだけどうちの子に向いてないのかしら?

私たちが学生の頃だって勉強は辛かったものね

叱られると余計やる気がなくなっちゃう

叱るよりも子どものやる気を応援するのが親の役目なのかも...

自分と近い世代のPTAの意見は参考になりそう...

叱るよ! 応援...

うん! 塾が一緒のカワイイちゃんと同じ高校目指したいからオレがんばるんだ!!

そこがやる気スイッチだったか?!

第13回 いじめ防止
標語コンテストの募集

「いじめ防止標語コンテスト」を本年度も開催する運びとなり、皆様にご案内をお送りさせて頂いています。

コンテストも今年で13回目の開催となり、毎年多くの子どもの思いのこもった標語を受け取っております。事務局としてもコンテスト運営に携わらせていただく事に大きな意義を感じています。

応募締切 2020年1月14日(火) たくさんのご応募をお待ちしております。

2019年1月現在の内容です。

24時間様々な危険からお子さまを補償する

小・中学生総合保障制度のご案内

北九州市PTA協議会 推薦

本制度の特長

- PTAを窓口とした団体割引(適用割引約31%/2018年実績)により掛金が割安です。
- 「傷害(ケガ)補償」・「個人賠償責任補償」・「育英費用補償」の3つの補償でバックアップ!!
- 医師・看護師ヘルスカウンセラー等による健康・医療相談。
- セカンドオピニオン アレンジサービスがついています。
- 地震・噴火・津波によるケガの補償がついています。
- 児童・生徒が病気をされた場合の補償プランも選べます。
- 学校の授業・登下校中等、児童・生徒が携行している身の回り品の事故による損害補償プランも選べます。

こども総合保険

自転車総合保険

今すぐ見よう!
総合保障制度の内容を
動画でご紹介!!

北九州市PTA協議会 小・中学生総合保障制度
お問合せ先・引受保険会社

AIG損害保険株式会社 北九州営業支店
(小・中学生総合保障制度係)

【住所】〒802-0005 小倉北区堺町2-3-31 富士火災小倉ビル
【電話番号】093-511-3821 【受付時間】午前9時～午後5時まで(土・日・祝日・年末年始を除く)

本制度の補償期間は2019年4月1日(午前0時)～2020年4月1日(午後4時)までとなっております。補償期間の中途からのご加入希望の場合には上記お問合せ先までお問合せ下さい。
この広告は制度の概要を説明したものです。詳細につきましては、3月上旬に配布されましたパンフレットをご覧ください。上記お問合せ先までお問合せ下さい。

S-190166 202001